

(仮訳)月および月以遠の宇宙探査協力に係る NASA/JAXA 共同声明

米国航空宇宙局(以下、「NASA」という。)及び宇宙航空研究開発機構(以下、「JAXA」という。)は、

月への有人回帰と火星ミッションへの技術開発を含む深宇宙における持続的な探査に取り組むビジョンを共有していることを認識し、

ISS での両機関の協働は、深宇宙探査への取り組みにおける要としての役割を持ち続け、これにより両機関は、探査に向けた国際標準の構築を含む、研究・技術開発を通じ、探査を発展・可能とさせていくことを認識し、

2018年1月24日に署名した、宇宙探査に係る NASA/JAXA 共同声明にて、両機関は月を周回する“Gateway”が、両機関の得意とする専門技術の集結や貢献により宇宙探査の重要基盤となることを認識し、

米国政府高官からのコミュニケーション及び、直近では、特に Gateway を含む NASA 探査キャンペーンへ日本を招待する旨の NASA 長官から JAXA 山川理事長への 2018年8月9日付け書簡を認識し、

両機関は探索的な議論を通じ、日本の得意とする専門技術が Gateway の発展に効果的に貢献できる領域を特定し、

HTV-X 及び他のロボティックミッションのような日本の高度な技術の活用により、Gateway の概念及び月探査全体アーキテクチャが強化されること、また、これにより月近傍・月面における様々なミッション目的を支援するための持続性と能力向上が可能となることを認識し、

Gateway を含む月近傍への NASA の SLS/オリオン宇宙船による有人輸送という主要な役割及び、JAXA による Gateway の重要な機能の提供の意図を特に認識し、

Gateway の初期建設は両機関、ISS パートナー及び各々政府により調整されるが、両機関は、無人探査機・月面着陸機・ローバの活用による月面ミッションを含む、月および月以遠の探査での協力機会を探求するための共同議論を続ける意思を確認し、

持続的かつオープンな月探査アーキテクチャを実現するための、両機関の責任について、他の民間企業や国際パートナーとの調整結果を踏まえ、両国のステークホルダからの支持が得られるよう具体的提案をおこなう。